

# 食品安全委員会は 7年目の新体制へ。

設立6周年となる平成21年7月1日(水)、食品安全委員会は、第292回会合を開催しました。野田聖子食品安全担当大臣の挨拶で始まった会合では、新委員長として小泉直子委員を選出し、7年目の新体制が決定しました。また、本間清一委員が任期満了で退任し、村田容常委員が新たに就任しました。



## 科学の独立性で、より確かな安全を。

野田 聖子 (のだ せいこ)  
内閣府特命担当大臣 (科学技術政策、食品安全) / 消費者行政推進担当大臣

食品安全委員会は平成15年の設立以来、科学に基づく新しい食品安全行政の中核として、リスク評価やリスクコミュニケーションに精力的に取り組まれてきました。委員や専門調査会、また多くの関係者の方々のご尽力に、担当大臣として心から敬意を表します。

リスク評価とリスク管理を明確に分離し、食品の安全性を確保していく仕組みをとっている食品安全行政ですが、その枠組みや食品安全委員会の役割は、いまだ十分に国民の皆様浸透しているとは言えません。私は、食品の安全は科学

に基礎をおくものであり、科学の独立性と中立性が尊重されることが重要であることを、国民の皆様様に改めてご理解いただきたいと思ひます。

この秋には消費者庁、消費者委員会が発足します。この新しい枠組みの中で、食品安全委員会におかれましては科学に基づく安全の確保の拠り所となることはもちろんのこと、国民の安心を下支えする重要な役割を果たしていただきたいと思います。

### 新委員長・新委員あいさつ



食品安全委員会  
委員長 小泉 直子  
(こいずみ なおこ)

食を取り巻く環境はますます複雑になり、リスク評価の手法も難しくなっていますが、私たちは、科学的評価は中立公正に行われなければならない、という大原則を忠実に守りながら活動を続けています。これが「信頼あるリスク評価」の礎です。

私は、委員長として、「信頼あるリスク評価」のために全力を尽くしていきたいと思っております。そして国民の皆様、私たちのこのような姿勢をご理解いただき、私たちの活動が各人の「安心」につながるように、リスクコミュニケーションにも努めていきたいと思っております。



食品安全委員会  
委員 村田 容常  
(むらた まさつね)

今回新しく委員に選任されました、お茶の水女子大学大学院教授の村田です。農学部で農芸化学を専攻した後、民間会社に9年間勤務してから大学に移って、今年で22年目になります。専門は食品の加工、貯蔵学であり、大学の授業では食品製造保存学、食品微生物学などを教えております。そうした専門分野から、食品の特徴や特質を踏まえつつ、客観的・科学的に食品の安全について考えていきたいと思っております。

### 退任あいさつ



本間 清一  
(ほんま せいいち)

この6年間、食中毒微生物や輸入牛肉などさまざまなリスク評価に携わってきました。委員を退任する今、食品安全について、あらためて考えてみました。

眠気や吐き気をもよおすソラニンという成分を発芽のときつくりだすポテトは、新大陸発見でアンデスから欧州にもたらされました。栽培・食用化されるには、19世紀の大飢饉での食資源としての寄与があって、今の主食ともいえる座を得たものです。今は遺伝子組換えやクローン技術も新たな食用生物を産み出す時代になっています。広範囲の毒性試験を経て、食べやすさ、おいしさに親しめる場面が欲しいと思ひます。委員と傍聴者が和牛のクローン牛のサイコロステーキを共に味わう日を心待ちにしています。

### 食品安全委員会 委員 (平成21年7月1日～)

委員長	小泉 直子	こいずみ なおこ	公衆衛生学の分野
委員長代理	見上 彪	みかみ たけし	微生物学の分野
	長尾 拓	ながお たく	化学物質(有機化学)の分野
	野村 一正	のむら かずまさ	情報交流の分野
	畑江 敬子	はたえ けいこ	消費者意識の分野
	廣瀬 雅雄	ひろせ まさお	毒性学の分野
	村田 容常	むらた まさつね	生産・流通システムの分野